

教科	家庭	科目	家庭総合	
履修条件 対象生徒	全員履修 デザイン科 2 学年			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図り、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。</li> <li>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</li> <li>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</li> </ul>			
学習方法	<p>[授業] (週2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事例や実験・実習などを通して、自分の生活に結びつけて学習できるよう問題解決的な授業を重視する。</li> </ul> <p>[家庭]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習で得た知識や技術を実際の生活に活用させる。</li> <li>夏季休業中の課題「ホームプロジェクト(Home Project)」に取り組む。 これは、各自が自分の生活の中から問題を見つけ出し、家庭科で学習した知識や技術を生かして解決方法を考え、計画を立てて実践する問題解決学習である。</li> </ul> <p>[補習・その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校家庭科には、「学校家庭クラブ」という組織があり、家庭科を学習する生徒は全員、学校家庭クラブ員となる。クラブ員全員が、家庭科で学んだ知識や技術を生かして、学校・地域社会に対して、下記に示す研究的・奉仕的・社交的な活動を行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>研究的な活動：料理講習会、ホームプロジェクトなど</li> <li>奉仕的な活動：エコキャップの収集、トイレ清掃、保育所訪問など</li> <li>社交的な活動：文化祭バザーなど</li> </ol> </li> </ul>			
学習計画 と ねらい	<p>&lt;1 学期期末考査まで&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>これからの生き方と家族</li> <li>次世代をはぐくむ</li> <li>充実した生涯へ</li> <li>ともに生きる</li> </ol> <p>&lt;2 学期期末考査まで&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>衣生活をつくる</li> </ol> <p>&lt;学年末考査まで&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>経済生活をつくる</li> </ol> <p>&lt;年間を通じて&gt;</p> ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	<p>○人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解する。</p> <p>○男女が協力して家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性に気付く。</p> <p>○家族の生活を健康で快適に営むことができるように、衣生活に必要な基礎的な知識と技術を身に付ける。 (被服製作：ハーフパンツの製作)</p> <p>○家庭経済や消費生活について学び、現代の消費生活・環境の課題に気付き、消費者として責任をもって行動できるようにする。</p> <p>○家庭クラブの一員として各種行事に参加し、「創造」「愛情」「勤労」「奉仕」の精神を身に付ける。</p>		
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度	
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的な学習に取り組む態度」の3つの観点別評価基準について、出席状況・授業態度・実習・提出物・定期考査・家庭クラブ活動などの学習活動を参考に総合的に判断して評価する。</li> <li>定期考査は、知識・理解を偏重することなく、3つの観点が評価できるよう作問を工夫する。</li> </ul>			